

教科書・教材・ソフトウェアの在り方ワーキンググループにおける当面の検討事項

1. 背景

ICTは学校において個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実し、全ての子どもたちの可能性を引き出す教育を実現するために不可欠のものであるところ、GIGAスクール構想に基づくICT環境の整備と活用を進める中で、教科書・教材のデジタル化を推進するとともに、既存の教科書・教材等との関係を整理し、個別最適な学びと協働的な学びを一体的に充実することが求められている。

学習者用デジタル教科書（以下「デジタル教科書」という。）については、「デジタル教科書の今後の在り方等に関する検討会議第一次報告」（令和3年6月）において、令和6年度を本格的な導入の最初の契機として捉えているところ、その在り方については、「全国的な実証研究や関連分野における研究の成果等を踏まえつつ、更には財政負担も考慮しながら、今後詳細に検討する必要がある」とされたところである。

デジタル教科書の普及やその使用による教育上の効果等の検証が進みつつあるところ、このような状況を踏まえ、子どもたちの学びの充実を図る観点から、令和6年度からのデジタル教科書の本格的な導入の在り方等について検討する。

2. 検討の視点

（1）総論

- 1人1台端末環境下における教科書・教材・ソフトウェアについて、紙とデジタルのそれぞれを活用した指導により期待する教育効果はどのようなものか。
- 「見る/読む手段（本・資料）」としての端末と、「書く手段（鉛筆・ノート）」としての端末の在り方をどのように位置付けるか。その際、発達の段階をどのように考えるか。

（2）デジタル教科書等の効果的な活用等

- 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実に向けて、デジタル教科書やデジタル教材、関連するソフトウェアを一体的に活用することを見据えた場合、それぞれの役割はどのようにあるべきか。
- デジタル教科書と紙の教科書の役割分担について、どのように考えるか。（デジタル教科書について、その特性を踏まえて、どの学習場面において、どのような方法で使用するものが効果的であるか、また留意しなければならない課題は何か。）

- デジタル教科書を使用する際の健康に関する留意事項や対応方策として、これまでに示されているもの^{*}に加え、何があるか。

※「学習者用デジタル教科書の効果的な活用の在り方等に関するガイドライン」(令和3年3月改訂)、
「デジタル教科書の今後の在り方等に関する検討会議第一次報告」(令和3年6月)等

- ネットワーク負荷の低減方策について、何が考えられるか。(現状のネットワークや1人1台端末が前提。)

(3) デジタル教科書の在り方等

- デジタル教科書に必要とされる標準的な機能等について、どのように考えるか。(特別な配慮を必要とする児童生徒にニーズのある機能に係る整理や学習ログ、コピーガードに関する整理を含む。)
- デジタル教科書の導入の在り方について、発達の段階や教科等の特性を踏まえつつ、どのようにあるべきか。
- コスト面にも留意しつつ、デジタル教科書が備えるべき基本的な要件や、教科書発行者とビューア事業者の関係性について、どのようにあるべきか。
- デジタル教科書や教材の費用負担の在り方について、どのようにあるべきか。また、妥当な費用水準についてどのように考えるか。